

No.623 (改題583号)
2023年
6月14日(水)

新社会兵庫



週刊 新社会

発行所: 新社会党
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 三成工業ビル3F
TEL. 03(6380)9960 FAX. 03(6380)9963

新社会党兵庫県本部 神戸市中央区中山手通5丁目2-3 ☎078(361)3613 FAX078(361)3614 毎月第2、第4水曜日発行 購読料月400円(1部200円)郵便振替:01120-7-16805

ひょうご

碑 67 物語

碑には二万四千四年(一七〇一年)三月十四日、赤穂城主浅野内匠頭長矩は、江戸城松の廊下において高家吉良上野介義央に刃傷したため、城域は没収、家臣は離散、赤穂

三代五十七年で浅野家は断絶した。赤穂城を明け渡した城代家老大石内蔵助良雄は、尾崎村『おせど』の寓居で残務処理にあたり、この赤穂御崎から海路妻子を送ったあと、菩提寺花岳寺で亡君の百廿日法要をつとめ、翌六月二十五日に山科へ旅立った。(後略)とある。

興を願いながら赤穂を離れる大石の胸中は察するに余りある。「忠臣蔵」の吉良上野介は敵役として登場するが、吉良は地元では名門であり、人望も厚かったと言われる。それがなぜあのような事件になったのか?一説によると、戦の無くなった江戸時代に、おける武士への評価の低いと江戸と赤穂の気候の違いの認識のずれが原因だったと言われている。残務処理では、発行し



赤穂の街と海を眺める東御崎展望台広場に大石内蔵助の銅像と並んで建てられている石碑

ていた藩札を全部現金に交換したとの話もある。【メモ】JR播州赤穂駅(森山)

から南東へ車で約15分。碑の横には台座を含めて高さが約5mある大石内蔵助の全身像がある。

大石内蔵助赤穂出立の碑

(赤穂市御崎)

「王子公園こわさんといて」 市民が抗議集会とデモ

6・1 神戸市役所前



王子公園の再整備問題について市はもっと市民の意見に耳を傾け対話をと神戸市役所前で市民100人が集会を開いた=6月1日、神戸市中央区

「王子公園こわさんといて」大学誘致のために公園を切り売りするなんてもってのほか。大学誘致を前提とする神戸市の王子公園再整備計画に反対し、市民の声に十分耳を傾けようとしない市の強引な進め方に抗議する集会が6月1日昼、神戸市役所前で開かれ、約1000人の市民が参加した。参加者らはマイクリレーで、市民の貴重な財産である王子公園を大切にしたい思いを訴え、こうした思いを踏みにじるような神戸市のやり方に怒りの声をあげた。主催したのは、「王子公園の未来はみんなで決める」と活動をする「王子公園・市民ミーティング」実行委員会。

大学誘致をめぐる4月28日の公募締め切りまでに応募があったのは関西学院大学だけ。市の予定ではプレゼンテーションなどを経て6月中にも優先交渉権者が決められるが、こうした局面の中で抗議集会となった。集会はシンガソングライターの矢谷トモヨシさん自作の「王子公園こわさんといて」の歌の演奏から始まった。つなぐ神戸市議団の香川しんじ、あわはら富夫

する市民らが、王子公園にかける自分の思いや活動の中で聞いてきた市民の声を次々と述べた。「そもそも大学誘致には無理がある」「大学誘致のための公園の切り売りはやめて」「市民の財産である公園を市民の意見も十分聞かずに壊さないでほしい」「大学誘致は王子公園のすばらしい景観・環境や防災機能も損ない、市民の生活・憩いの場を奪うことになる」「自分は関学出身だが、関学にも思い止まってほしい」。また、大学誘致ではなく今ある施設の再整備を基本に据えて市民自身が創った再整備計画「王子公園・市民ビジョン」の優位性を訴え、市もこの計画を検討するよう求める声もあがった。

「入管法改悪法案を廃案に!」市民デモHYOGOがデモ

「入管法改悪法案を廃案に!」市民デモHYOGO。案に「市民デモinHYOGO」が5月22日、神戸市内で行われ、約50人が東遊園地からJR元町駅前までをプラカードやコールで訴えながらデモ行進した。呼びかけたのは市民デモHYOGO。在留資格を持たない外国人のたたちの長期收容など、差別的・非人道的な対応が次々と問題となっている日本の入管行政。ことあるうちに、今国会に提出され、5月12日から参議院本会議で審議中の「入管法改正法案」は、そのような人権侵害をさらに助長しかねないものだ。集会冒頭、入管問題に長年取り組んできた弘川欣絵弁護士は今回の改悪法案の問題点について「①3回目以降の難民認定申請者の強制送還が可能になる。そもそも日本



急ぎよの呼びかけに応えた市民約50人が弘川欣絵弁護士らを先頭に入管法改悪に反対するデモ行進=5月22日、神戸市中央区

の難民認定率は1%未満で、明らかに難民条約に反する。②新設の「收容」に代わる「監視措置」制度は、無期限收容を判断できる入管の絶大な裁量は変えないまま監視の役割を民間人に押し付ける。③送還忌避罪や仮放免逃亡罪の新設で、様々な理由で帰国を拒否している人や、仮放免者や監視措置中の就労などについて刑事罰を与えることを可能にする。支援者や弁護士も共犯として処罰の対象になりうる」などと指摘。「難民認定を担う独立機関の新設や、收容の判断主体を司法に変えるなど、人権を基本とした入管行政に改めることこそ必要だ。国会会期末までまだ反対の声が上がっている。あきらめない雰囲気づくりこそ大切だ」と訴え、大きな拍手を受けた。(彩子)



集会後は三宮センター街などを通って「王子公園を守ろう」と市民にアピールするパレードを行った=6月1日、神戸市中央区

水脈 政府は「異次元の少子化対策」加速化のための年間3兆円の財源として社会保障費などの歳出改革(削減)をはかるほか、国民1人当たり月5000円程度の社会保障負担増を2026年度から実施で検討。経済財政運営の指針「骨太の方針」に明記する一方では、2024年度中には団塊世代が全て後期高齢者になる。高齢化率は30%を超え、およそ700万人(5人に1人)が認知症になると推計されている。介護保険制度の給付削減と保険料負担増が続き、最近では「ビジネスケア」(男性正規労働者も介護離職の危機)対策の必要が叫ばれる等、介護の社会化とは程遠い、家族にすべての責任と負担、日々の介護のしかる姿が見えている。今にも侵略の危機が迫るかのごとく軍備の拡充を最重要課題に据える政府が、将来にわたる国民の安全対策を理由として「今を生きている国民の責任」に求められている費用は43兆円だ。2022年度の国民負担率は47.5%。実質賃金の低下が続く中、負担率はさらに上がると見られている。危惧される「新しい戦前」は、国会議論を形骸化し、社会の反対の声を無視する岸田政権によって国民生活に具体的に表れている。暮らしを蔑ろにする平和はない。

「日本は戦争をするのか？」

丹波篠山で半田滋さん講演会



防衛ジャーナリストの半田滋さんが岸田政権の安保政策の大転換を批判＝5月19日、丹波篠山市

「日本は戦争をするのか？集团的自衛権と敵基地攻撃能力」というテーマの講演会が5月19日、丹波篠山市民センターで開かれた。講師は、元東京新聞論説編集委員で防衛ジャーナリストの半田滋さん。

田滋さん。「憲法たんば」「たんば憲法を生かす会」などでつづいた半田滋さん講演会実行委員会が開いたもので、広く市民に参加を呼びかけ、90人が参加した。

半田さんは、岸田政権の「安全保障政策の大転換」を従来の政府見解から検証し、軍事力強化は東アジアに不安定化を呼び込む「防衛力の抜本的強化に要する予算は5年後に4兆円不足する。次の総選挙後には全額増税（消費税2%アップ）で」と言い出しかねない。「私たちは本当にその重い負担を引き受ける軍事力強化を望むのか。各種選挙に臨む姿勢が問われている」「敵基地攻撃能力を持ち対米支援するのは自滅の選択だ」「平和は軍事力でなく命がけの外交によって初めて実現する」など進んでいることに驚いた。「知らないうちに戦争への道筋ができてしまわないよう、国や政権の間に危険な事態がどん

「軍拡か？憲法9条か？」

弘川欣絵弁護士がお話

第7回東灘憲法カフェ



「平和を守るのは軍拡？憲法9条？」をテーマに弘川欣絵弁護士が問題提起＝5月27日、神戸市東灘区

憲法を生かす会・東灘は5月27日、ろっこう医療生協と共催で第7回東灘憲法カフェを東灘区内で開いた。「平和を守るのは軍拡？憲法9条？」をテーマに弘川欣絵弁護士のお話を聞いた。弘川さんは「憲法とは何か」というところから話を始め、安保関連3文書や敵基地攻撃能力について、憲法学者らによる安保関連3文書への対案も紹介しながらその重大な問題点を解説。また、軍拡を進める防衛財源確保法案や防衛生産盤強化法案の問題点、さらには「9条加憲論」の問題点などについてもパワーポイントでわかりやすく説明した。医療生協の組合員も多かった参加者からは、「憲法は難しいという印象が強い。日常生活と関連させて考えないと」「G7広島サミットにゼレンスキー大統領が来たが、平和のためと言いつつ武器を提供するサミットになってしまった」「ウクライナが核武装していたらロシアは攻めなかったのでは、という意見がある」「維新の会の勢い、流れが怖い」「国にとって重要な問題でも閣議決定だけで進めるのは疑問」「このものが教育が自民党に支配されているのが問題」等の意見が活発に出され、弘川さんの助言を得ながら相互討論を行った。

明らかにし犠牲者の名誉回復を勝ち取り顕彰する活動などを続けている。また、今後どのように活動が続けられていくか、決意を込めた「神戸宣言」が採択された。

「大逆事件について、戦争と同じ国家による犯罪だと深く立ち入った。次は墓前祭にも行ってみたい」と（灘区Yさん、68歳）との感想も出された。翌28日には、神戸の犠牲者、岡林貞松と小松丑治ゆかりの跡である神戸多聞教会、大倉山いのち

動きを注視したい「戦争のない外交を貫くことが大切」などの感想が寄せられた。（川崎）

【1面記事のつづき】さらにこの日の行動の締めくくりとして、市役所前から三宮センター街を通ってJR元町駅前までを歌も歌いながらプラカードなどを掲げて「王子公園を守ろう」のアピールを行うパレードを行った。「王子公園・市民ミーティング」実行委員会では、関西学院に対する「王子公園への応募取り下げを求める緊急署名」も今取り組み中だ。署名用紙などは同実行委員会事務局まで。ファクス078・200・6351（こっぺ保健サービス内）

神戸で第5回大逆事件サミット

第5回大逆事件サミットが5月27日、神戸市中央区の兵庫県学校厚生会館で開催された。受け入れたのは、「大逆事件を明らかにする兵庫の会」。

約100人、「幸徳秋水を顕彰する会」（高知）や「森近運平を語る会」（岡山）、「大逆事件の犠牲者を顕彰する会」（和歌山）、「明科大逆事件を語り継ぐ会」（長野）、「京都丹波岩崎草也研究会」（京都）、「堺利彦・葉山嘉樹・鶴田知也の3人の偉業を顕彰する会」（福岡）など各地の会から約40人の140人が参加した。

開催されてきて、第5回サミットは岡林貞松と小松丑治の2人の犠牲者を出している神戸で3年前に開催予定であったが、コロナ禍のため延期されていた。

大逆事件（1911年）は、当時の社会主義者や非戦主義者、民主主義者を弾圧するための権力による完全なフレームアップ。日清・日露面侵略戦争や、韓国併合を経てア

「大逆事件について、戦争と同じ国家による犯罪だと深く立ち入った。次は墓前祭にも行ってみたい」と（灘区Yさん、68歳）との感想も出された。翌28日には、神戸の犠牲者、岡林貞松と小松丑治ゆかりの跡である神戸多聞教会、大倉山いのち

と平和の碑、夢野橋、小松夫妻の養鶏場跡を巡るフィールドワークが行われた。次回は岡山での開催予定。（津野）

「大逆事件について、戦争と同じ国家による犯罪だと深く立ち入った。次は墓前祭にも行ってみたい」と（灘区Yさん、68歳）との感想も出された。翌28日には、神戸の犠牲者、岡林貞松と小松丑治ゆかりの跡である神戸多聞教会、大倉山いのち



コロナ禍で3年前の開催予定が延期されていたが、ようやく実現した大逆事件サミットin神戸＝5月27日

改憲の動きをウォッチング

首相「歴史的転換期こそ改憲に挑戦」

中曽根元首相が率いた超党派の新憲法制定議員同盟は5月26日、「安倍晋三名誉会長を偲び、新しい憲法を制定する推進大会」を開催。

岸田首相は、ロシアのウクライナ侵攻や北朝鮮の弾道ミサイル発射に触れながら「国際社会が歴史的転換期を迎えている時だからこそ、私たちは憲法改正に強い思いを持って挑戦しなければならぬ」と強調し、改憲に改めて意欲を示した。

公明党の北側副代表は、緊急事態時における国会議員任期の延長改憲について「相当議論が煮詰まっている」と述べ、維新の会の馬場代表は「いよいよ憲法改正の時がやって来た。われわれはエンジン（エンジン）をかける役割を担う」と力説した（東京）。

改憲5党派 議員任期の延長先行めざす

改憲5党派（自民、公明、維新、国民、有志の会）の改憲の本丸は9条。国民の合意を得るのは困難とみて、緊急事態条項の一部である「国会議員

（中）

李政美(い・じょんみ) いのちをうたうコンサート

アイ女性会議ひょうごら明石で開催

「李政美(い・じょんみ)いのちをうたうコンサート」が5月12日、子午線ホールで開催され、約150人が参加した。

「イムジン河」「珍島アリン」「ああ福島」朝露「序詩」「きみしにたまふことなかれ」「ありがとういのち」「京成線」など、どれもよく知られたメロディと李政美さんの



澄み切った歌声で聴衆を魅了した李政美さん＝5月12日、明石市

「ああ福島」の詩は、李政美さんの親友、武藤類子さんが書いたもの。

「あつ切った歌声は聴衆を魅了し、終了後はCDとサインを求める長い列ができた。「来てよかった」「あつ切った」という声があふれた。「癒された」「歌の素晴らしさだけではない、よかつた」などの感想が聞かれた。

この日、武藤さんも神戸に駆けつけ、舞台上で花束の贈呈を行った。

李政美さんの歌にはストリートな政治的なメッセージはないが、生きることに、気持ちを一つに、人を愛することに、真の直ぐな気持ちがあふれている。ボーカルと一体になって曲の完成度を高め、高らかに歌っているピアノ(竹田裕美子さん)とバイオリン(向島ゆり子さん)の力強い、テクニクの見事さをも舌を巻くものだった。

朝鮮半島に平和と統一を 兵庫区・キャナルタウン広場で 第26回統一マダン神戸

は終戦ではなく、今も戦争は終わっていない。『2018年板門店宣言』による平和と統一の機運は、尹錫悦(ユン・ソンニョル)政権の対北強硬路線への転換、韓米合同軍事演習の反復、韓米日軍事同盟の強化により朝鮮半島とアジアにとって極めて危険な状況に変わっている。朝鮮敵視政策をやめ、休戦協定を平和協定にかえ、戦争状態を即時に終わらせることが必要だ」と訴えた。



子どもたちのパフォーマンスを楽しむ参加者たち＝5月14日、神戸市兵庫区

「休戦協定」締結70年 高まる戦争の危機」と題して講演した。(門永秀次)

「朝鮮半島に平和と統一を」――第26回統一マダン神戸が5月14日、今から会場をJR新長田駅前からJR兵庫駅南側のキャナルタウン広場に移動して開催された。

開会にあたり、崔孝行(チェ・ヒョヘン)実行委員長は、朝鮮戦争の休戦から今年70年。休戦

マダン(マダン)は雨天にもかかわらず例年のように朝鮮半島の統一と平和を願う団体がたくさん集まり、舞台で演じられるテコンドローや中国獅子舞、朝鮮舞踊などを見て交流を深めた。

なお、今年の統一マダン神戸のイベントは4月24日に開かれ、韓連・宋世一(ソン・セイリ)委員長が「朝鮮戦争

新社会党兵庫県本部 7月23日に 県本部定期大会開催

7月23日、第29回定期大会を神戸市中央区の神戸市立婦人会館で10時から開く。

厳しい結果に終わった先の統一自治体選挙の総括を真摯に深め、実際の運動のなかで見出された成果と明らかになった課題にもとづき、次世代につながるべく大衆運動や党建設の新たな取り組みをもとに兵庫県本部の「再出発」への意思統一を図る。

地域ユニオン あちこちあれこれ

但馬ユニオンでは「辺野古新基地建設の断念を」の署名活動の取り組みを決定した。1人5筆が目

標。しかも、署名は自署しかダメ。私はすでに退職しているため、職場で頼める人はいなく、頼めるのは地域しかない。

2年前に取り組んだ「75歳以上医療費

小さな取り組みでもあせらず、ゆいゆいと

の窓口2割負担反対」の時、1軒で夫婦2人の署名を主人に書いてもらったことがある。その時に言われたのは、「私は2割でもいいが、署名はし

私の住む地域は23軒で、2021年に組長を担ったのが唯一の接点であり、普段のあいさつはするが、それだけの付き合いだ。し

か、私の年齢より上の人が23人もいて、お宅に伺って話を聞くのも一苦労である。

訪問する時間帯の基本は昼前と夕方、その時

の遠い人が多く、何回も話をしなければならぬ。それでも、戦争に対しては、署名を断られた人も含めて反対の意思表示がされた。1日に1人か2

人しか会えないが、会えない日もある。そんなことを繰り返して、22軒全てに依頼した。でも署名してくれたのは3人である。

まだ残りがあ

て、取り組みは終わってしまふ。

最終的には私と妻を入れて10筆の署名が集まったが、1か月半、毎日時間をかけて集めたので、自分としてはすごくよかったと思える。

今後も小さな取り組みではあるが、あせらず、ゆいゆいと一歩ずつ前進していきたい。

アレンジ自在! 半田手延べそうめん 阿波白系

300年の伝統を誇る麺のふるさと、半田。霊峰剣山の寒風と吉野川の清らかな流れに育まれた里で、原材料と製法にこだわって作り続ける芝製麺の人気の定番商品です。

- 太麺 2キロ箱入り 3,000円 / 3キロ箱入り 4,400円
- 細麺 2キロ箱入り 3,000円 / 3キロ箱入り 4,400円

- 毎月の定番商品に合わせてお届けします。
- お中元やお盆のお供え用として送られる場合は、宅配便(料金別途)利用でお届けします。

コシのある半田のそうめんは、洋風、中華風にもアレンジ自在。トマト、大葉、ツナ缶、ごま油、麺つゆと合わせれば、栄養価も高まります。手近にある食材と合わせてみてください。にゅう麺として食べるのも美味しいです。

(有) ぴいふる
電話/ファックス 078(531)0135



おんなの目

今年3月、無事に定年を迎えました。阪神・淡路大震災直後の出産で保育園に入れず取った育休と大病を患ったときの計9か月の休職期間以外、看護師として定年後の安定した生活を夢見て休みなく働き続けてきました。

しかし年金は65歳からしか支給されず、ダウン症の娘と2人暮らしで、生活のため定年後も嘱託職員として働かせていたことがなくなり、土曜の2日出勤が減っただけで賃金は60%に。時給換算では新入職員の時給よりも低く、高齢者雇用調整金が出るというにもかかわらず期待もできません。

認知症で同居していた叔母がグループホームに入居したこともあり昨年夏より家賃の安いマンションに転居しました。それでも家賃で年金の約半分が消えてしまう計算で、貯蓄を切り崩しながらの生活となります。同居している時よりイキイキと生活している叔母をみて、自分も認知症にならないとグルーブホームに入りたいと思いますが、自分の年金額では全く足りず貯金の残額と相談しながら入居を検討しなければなりません。

医療も、介護保険も、負担は増えるばかり。まさに昨年の参院選での岡崎彩子さんのスローガン

「女・シングル・それでも生きていける社会！」に変わらないうち、お金の切れ目が命の切れ目の厳しい現実です。

そんな中、今年3月中旬から娘が心を閉ざしてしまいました。癒しの笑顔も声も消え、目も合わせてくれず、意思表示もしてくれない状況が続いています。作業所には送迎を利用して何とか通うことができていますが、

いつの日か笑顔が戻る

振返ると、いつも私の都合で転居を繰り返すのたびに娘にかなり負担をかけてきました。娘のしんどさにも気づかず、今まで仕事、趣味のサークル、組合や諸活動の会議とほぼ毎晩遅い私を手伝いをしながら待っていてくれる娘の優しさに甘え続けてきました。障がいがあっても、高齢になっても、安心して生活できる社会をめざして活動してきたはずなのに、娘に負担をかけるばかりで、次の世代の人たちに働きかけることもできず、今まで何をしていたのかと考えると虚しさばかりが残ります。

しかし、このまま逃げるわけにはいきません。選挙結果も重なり心折れそうな時、娘のことを気にかけて下さる仲間の存在に励まされてきました。王子公園再整備の問題も今からが正念場。仲間と共にあきらめず長期戦を続けていきたいと思えます。

娘のことも娘のペースを大切にしながら焦らず向き合っていきたいと思えます。いつの日か笑顔が戻る日が来ると信じて。

(田上美紀)



『世界で最初に飢えるのは日本』

鈴木宣弘著／講談社XQ新書／900円＋税

YouTubeでたまたま「農業消滅と農政の失敗がまねく国家存亡の危機」というタイトルが目に入り、えっ！というところ？と思わずクリックして講演会を視聴した。聞けば聞くほど衝撃的な内容だった。私自身は40年以上、食の安全にはできるだけこだわり、無添加食品、無農薬野菜、国内産等の食材を購入し、料理し、食してきた。関連する本なども読み、知識はある方だと自負していた。がしかし、ここまで具体的に国家的危機を目の前に感じさせられたことはショックだった。すぐに本書を購入し一気に読んだ。そして、さらに危機感を感じさせられた。

日本の食料自給率はカロリーベース37%。種、ヒナ、肥料の海外依存度を考慮したら10%にも届かない。野菜の種は90%が輸入、野

食の安全保障をどう守るか

(副題)

菜自体の自給率は80%、種を計算に入れると真の自給率は8%しかない。小麦は90%が輸入。大半が米国、カナダ、オーストラリアから。ウクライナ戦争の影響で世界中から買い注文が殺到し「食料争奪戦」になっている。肥料の争奪戦も起きている。大豆は約94%

そのお陰で米国は自国では使用できないので、日本への輸出小麦に使用している。日本政府は誰のために食料政策をしているのか。このことは輸入大豆、トウモロコシ(遺伝子組み換え：GM)でもしかりだ。

最近、「遺伝子組み換えでない」表示がかなり減っていることに皆さんはお気づきだろうか。その代わりに「国内製造」という錯覚表示をいろんな食品で目にする。2022年3

M)の現状では、国内の食品からはほとんどその表示が消えてしまう。その結果、「GM作物をたくさん使った食品」と「GM作物を基本的に使っていない食品」を区別できなくなり、消費者が安全な食品を選べなくなってしまう。消費者団体は基準を5%から引き下げて、それ以下なら「遺伝子組み換えでない」表示を許容する以前の運用に戻すことを要求している。ルール変更で、GM作物を作っている多国籍企業の利益は増している。

「コロナ、ウクライナ戦争で日本には食料安全保障は通用しないことが明白になった。このまま日本の農家が疲弊していき、本当に食料輸入が途絶したら国民は食べる物がなくなる。不測の事態に国民の命を守ることが『国防』とすれば、国内の食料・農業を守ることも国防の要、それが安全保障だ。国民一人一人が、自身がリーダーの覚悟で、それぞれの立場からやることに取り組み、子供たちの未来につなげたい」と著者の鈴木さんは述べている。「食」の恐ろしい現状を知るために、そして大切な命を守るためにぜひこの本を読んでいただきたい。(新原三恵子)

愛する人に伝える言葉



バンジャマン(フワ・マジェル)は、母クリスタル(カトリヌ・ドヌーヴ)とともに、名匠として知られるドクター・エデを訪れる。母子はそこに一縷の希望を託したが、ステージ4のすい臓がんで、治すことができないうちに率直に告げられる。自暴自棄になるバンジャ

マンに、エデは生活の質を維持するための化学療法を提案し、「一緒に進みましょう」と励ます。患者に対して、その家族に対して声をかけるドクター・エデの言葉が胸を打つ。「死の時を決めるのは、患者自身だ」「命が絶える時が道の終わりですが、それまでの道のりが大事です」。

余命短い人にと立ち向かうか、本当のことをどこまで伝えるか、というような内容かと思っていたが、人生の終点までどう生きるかというよう



な内容であった。バンジャマンは、劇場で学生たちに演劇を教えている役者だ。エデの励ましに徐々に心を許し、演劇の指導に一段と熱が入るが、やがて、病室で虚ろに寝ているだけになってしまふ。母クリスタルは息子のそんな姿に堪えられなくなり弱音を吐く。エデはクリスタルに「そばにいて、彼を愛し、甘やかしてあげてください」と励ます。

クリスタルはかつてバンジャマンの元恋人アンナと彼の仲を引き裂いた。

アンナとの間に子どもを作ったことに対して、バンジャマンの将来を思うあまりのことからであったが、今はそれが罪悪感となつて自身を責める。エデの勧めで、クリスタルは、息子レオナルドとオーストラリアで暮らすアンナに電話をする。しかしアンナは、バンジャマンがレオナルドを認

知しなかったことに対して、今も憎しみを持っていた。ところが、事実を知らされたレオナルドは「ひとりで会いに行く」とオーストラリアを

シネマランド

死と対峙した先に待つものは？

弱っていくバンジャマンに「ごめんさい」と謝るクリスタル。そんな母にバンジャマンはエデから教えてもらった5つの言葉を口にする。「赦して」「俺は赦す」「ありがとう」「さよなら」「愛して」。

そのギターを借りるとバンジャマンの安らかに眠る顔を見ながら「愛の哀しみ」を口ずさむ。映画の後に解説を読んだ。知ったのであるが、ドクター・エデ役のガリエル・サラは、実際に現役のがん専門医であるという。音楽によるセラピーも、明らかに彼が病院で行っていることだ。その彼が病院のスタッフに「余命いくばくもない患者にとって最大の贈り物は何だと思っ？」と聞く。その答えは、「死んでも良いという許可だ」と言う。一瞬ドキッとするが、真意は深い。(容)

監督 II エマニエル・ベルコ / 2021年 / フランス / 122分